

「東京都観光産業振興プラン～世界の観光ブランド都市・東京をめざして～(中間のまとめ)」
 に対して寄せられた主な御意見

該当箇所		御意見(要旨)	東京都の考え方
章	項		
第2章	戦略1「外国人旅行者誘致の新たな展開」	SNS・メールマガジンを活用した情報発信を進めてほしい。また、ご当地グルメや歴史資源、産業振興資源等を活用した観光プランを立ててほしい。	魅力ある観光資源の開発とともに、その情報を多様な媒体を活用し積極的に発信していくことは、旅行者の関心や意欲を高めるためにも必要と考えます。東京の魅力向上につながるような地域の取組を支援するとともに、ICT(情報通信技術)を活用した情報提供の充実を図ってまいります。
		東京にとどまらない広域的な取組を進めるべき。	国内外における連携の推進は、東京都の役割の一つであると考えています。国内の自治体と協働し、地域・都市間連携を進めてまいります。
	戦略3「魅力を高める観光資源の開発」	自動販売機における外国語表記対応など、多くの外国人観光客が不便を感じないような取組を進めることが重要。	さまざまな場面で旅行者を温かく迎え入れる環境を整備していくことは重要であると考えています。地元自治体・民間事業者等とも連携し、旅行者の満足度や利便性の向上度合いを考えながら、外国人旅行者を迎える仕組みづくりを進めてまいります。
		品川駅東側について、レインボーブリッジ等観光価値を活かした開発を進めるべき。	首都に相応しい都市景観を創出するなど、東京の価値を高めていくことは重要であると考えます。
	戦略3「魅力を高める観光資源の開発」施策2「魅力ある都市景観の形成」	歴史的価値の高い建造物の修復・保存・再活用を観光に活かしていくことにより、味わい深い東京の魅力を再現できる。	歴史を感じさせる街並みの継承や、周辺景観と調和した街並みの形成は重要であると考えます。歴史・文化を活かした街並みの形成に取り組んでまいります。
		水辺の開発について、地震が多発する昨今では、埋め立て地は危険性が非常に高い。膨大な費用を掛けて新たに開発するよりは、眠っている観光資源にもっと目を向けてほしい。	江戸、東京は水辺を中心に発展してきたことから、その周辺には歴史的な観光資源が広がっています。水辺空間を利用した季節のイベントや新しい観光スポット創出などにより、水辺の賑わいを生み出す取組を行ってまいります。
		放置されている森林や山里を生き返らせ、美しい自然の景観を見出すことで、森林は素晴らしい観光資源になる。	多摩地域や島しょ地域など、東京には豊かな自然があり、観光資源としての価値が高いと考えます。自然を活かした観光資源の整備を進め、地域の魅力を積極的に発信してまいります。
		緑広がる田畑や観光施設等と調和した景観を創出すべき。電線・電信柱について電線・地中埋設に取り組むべき。	建築物の形態・色彩等に街並みとしての調和を高めるなど良好な景観形成や、電線類の地中化(無電柱化)等の取組を促進していくことが重要であると考えます。引き続き、良好な都市景観を形成するための取組を進めてまいります。
		多摩・武蔵野等に現存する、歴史ある町の再開発にもっと力を入れてほしい。	歴史的景観を継承していくことは、観光地としての魅力を高める上で重要であると考えます。魅力ある観光資源の開発に取り組んでまいります。
		八丈島のアクセスの改善により、観光客の増加が期待できると考える。	島しょ地域については、旅行目的地としての価値の発揮、認知度や来訪意向の向上が重要と考えます。島内における旅行者の利便性を図るとともに、島しょ地域の発信力を向上し、新たな旅行者の開拓を促進していきます。

該当箇所		御意見(要旨)	東京都の考え方
章	項		
第2章	戦略4「受入環境の充実」 施策2「旅行者を迎え入れる環境の整備」	公共交通機関における段差解消、案内表示看板の改善、観光パンフレットの点字翻訳、手話通訳の派遣等を進めるべき。公共交通機関の駅員による介助士の取得を働きかけるとともに、駅におけるボランティア設置を検討してほしい。	障害者や高齢者を含め、訪れる旅行者が自由に行動できる環境を整備することは、東京の魅力を高めるためにも必要と考えます。都は、東京都福祉のまちづくり条例に基づく公共交通施設における段差解消や案内板等の整備基準を定めるなどの取組を行っており、今後もユニバーサルデザインの視点に立ったまちづくりを推進し、誰もが快適に滞在することのできる環境を目指していきます。
	戦略4「受入環境の充実」 施策4「交通インフラの充実」	成田空港活用度向上のための施策を首都圏を代表して提言すべき。羽田空港と成田空港双方が競争によるサービス向上とともに、経営の一体化等、連携を深め、東アジアの他のハブ空港に対抗できるようにすることが必要。空港アクセスにおける最大の課題は、成田・羽田間直通の大深度アクセス鉄道の早期供用。	首都圏空港の機能強化と空港アクセスの強化が重要であると考えます。ご意見につきましては今後の施策の参考とさせていただきます。
第3章	東京都観光産業振興プランの実現に向けて	「国の役割」として「観光資源としてのカジノ実現のための法整備」とあるが、「カジノ」が観光資源である必要性はなく、反対。	カジノは、世界の諸都市において、アフターコンベンションに活用されているなど、経済波及効果や雇用創出効果が期待できる有力な観光資源になりうると考えています。
第3章	戦略5「人材の育成・活用」 施策2「観光ボランティアの効果的な活用」	「東京都観光ボランティア」の紹介の仕方を工夫し、ボランティアの質向上のための研修を随時実施してほしい。	観光ボランティアについては、さらなる活用が期待されています。今後、認知度の向上を図り、その活動の機会の拡充していくとともに、観光ボランティアをサポートする体制を強化し、そのスキルアップを図ってまいります。
—	—	魅力ある商品開発、外国人客誘致に対する翻訳委員会の設置を提案したい。	世界の旅行者に選ばれる観光ブランド都市・東京、旅行者が何度訪れても楽しめる東京の実現を目指しています。ご意見につきましては今後の施策の参考とさせていただきます。
—	—	羽田空港における通訳サービスを検討してもらいたい。また、在日大使館における通訳サービス(NPO実施)の拡大に支援をお願いしたい。	